研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
平成25年12月６日発行　　No.39

「研修便り」は，高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有，研究所から発信する情報の周知を目的として，発行していきます。

専門・教育課題研修 選択研修 「一人ひとりの内面にある力を引き出すコーチング講座」

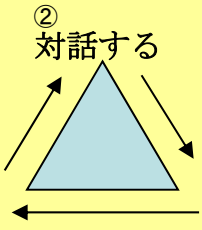
講師　太平洋学園高等学校　甲斐　誉司　教諭

平成25年10月４日(金)実施

概　要　「質問」を通して未来肯定型のアプローチを行い，クライアントが自ら考え課題を解決し目標を達成できるよう導く手法「コーチング」について学ぶ。

コーチングとは

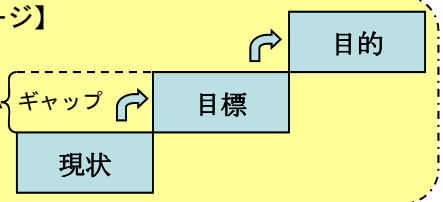
【コーチングのサイクル】



何を見ようとしているかで，見えるものが決まります。
「質問」で世界が変わるのです！

【コーチングのイメージ】

現状と目標のギャップ（成長課題）を，対話を通して明確にし，「わくわく」することを仕組んでいく。



目標：未来に向かう場所→　「目的」へのマイルストーン
目的：現在の活動に意味を与える

※マイルストーン‥計画通り進行しているか，チェックするポイント

目標を立てて，達成させることをねらう
↓
コーチは「質問」で支援する

未来肯定型アプローチである「がんばりたい」に応え，自ら考え解決するための適切な「質問」をする専門家(導き手)

コーチングの三原則

① 双方向性‥‥言語化（アウトプット）することで無意識を意識化させる
② 個別対応‥‥子どもに合わせた対応（テーラーメイド）
③ 継続性‥‥‥最低３か月は続ける

GROWモデル(コーチングの基本モデル)
- Goal　(目標の明確化)
- Reality　(現状の把握)
- Resource　(資源の発見)
- Options　(選択肢の創造)
- Will　(目標達成の意志)

Grow ＝ 成長する

☆　（教育現場に多く存在する）２つの文章の違いと共通点は？

Ａ：(　　)に適切な語句を書き入れなさい。　　Ｂ：(　　)にあてはまる適切な語句は何ですか？

共通点　求めているもの（ゴール）

違　い　Ａ…指示・命令型 ← 押し付け，教師主導
Ｂ…質問・提案型 ← 思い・考えを引き出す

何があったの？(What)とか，どうしたの？(How)って聞いてもらえると，素直に話せるかな。

質問・提案型（Ｂ）で子どもを導くことはできる
⇩
質問の質が変われば子どもが変わる

◎質問・提案型で気をつけたい聞き方
「何があったの？（What)」
「どうしたの？（How)」という聞き方が効果的
「何で(Why？）」という聞き方は，否定や原因を言及する言葉が続きやすい
→ 言い訳につながる

＜受講者の感想＞
- 今日のコーチング講座を受け，本人の内面的なやる気や自発的能力や相手のいいところを引き出すことができるように，アプローチの仕方を考えていきたいと思いました。
- 質問の質が変わると，人生の質が変わるということが分かりました。「ありがとう」で「条件感謝」し，「感謝神経」を磨きたいと思います。よりよい人間関係を築くために意識して質問の質を変えていきたいです。

平成25年度　第２回授業改革実践研修会

日時：平成25年10月22日（火）　会場：高知市立春野中学校

研修Ⅰ

公開授業（道徳）
授業者：高橋　秀仁　教諭，学級：１年１組，資料名：「感謝の最期の歌」

視聴覚教材を効果的に活用することで，子どもたちがお互いに感じたことを発言し，それを聴き合う姿が見られた。切り返しの発問をすることで，より思考を深め，道徳的価値に迫ることができていた。

【授業展開】

高橋　秀仁　教諭

導入
1　「アメージンググレース（日本語版）」を聞き，感想を発表する。

展開
2　本田美奈子さんが病室で，看護師さんに対して「アメージンググレース」を歌っている映像資料の視聴⇒感想の共有

3　【中心発問】「この歌を歌っている本田さんはどんな表情だったと思うか。その理由は？」
【切り返し発問】
・　「なぜ周りの人を笑顔にしたい」と思ったのか。
・　感謝しているとどうして涙が出てくるのか。

4　正面から撮影した映像を視聴する。

終末
5　感謝が涙に変わった実体験⇒運動会の団長の映像

評価のポイント：感謝の大切さや意義にふれる発言があったか

研修Ⅱ

講評・講話「年間を通した道徳教育の推進について」
講師：高知大学　田邊　重任　准教授

田邊先生のご講話の中から，いくつかのポイントを紹介します。

【資料の活用についてのポイント】

⑴　**主人公が道徳的に変化する資料**
・　登場人物に共感させ，子どもに自分の内面に問いかけさせる
・　道徳的変化がどこで起こるか，その場面の前に注目する
} 中心発問として設定し，道徳的価値に迫る

⑵　**主人公の道徳的変化がない資料**
・　登場人物のすばらしさのどんなことがすばらしいか（事実認識）
・　登場人物は，なぜすばらしいのか（価値認識）
} 自分を重ね価値を把握し，自分とのかかわりでとらえる

【中学校の道徳授業を深めるポイント】

中学生の発達段階にみられる傾向
→ ①　発言が少なくなる，単語で表現する傾向がある
②　分かったことを抽象的に表現する傾向がある

中学生は，「かわいそうだと思った」などと，短い言葉を使って，抽象的に表現をしがちである。そのときに，「どんなところが？」などと聞くことで具体的に表現するようになる。更に，「自分だったらどうか」など，深く聞いていくことで，生徒たちは自分と重ねて語るようになる。

田邊　重任　准教授

【受講者の感想】

・　価値の注入ではなく，子どもたちの生活と結びつけ，考えさせ，しかもそれを自分の言葉で表現させ，絡めていく過程を経て，一人ひとりの子どもが「感謝」ということの具体的イメージをもつことができたと思う。
・　適切な発問にしていく方法が，例に挙げられた資料から具体的に理解できた。また，中学生の発言にどのように切り込んでいくのか中学生の発達段階から話していただき，よく分かった。